

技術研修報告「技術英語研修」

著者	三宅 亜紀
雑誌名	技術報告
巻	26
ページ	43-46
発行年	2021-03-30
出版者	静岡大学技術部
URL	http://doi.org/10.14945/00028132

技術研修報告「技術英語研修」

三宅亜紀

(静岡大学技術部 機器分析部門)

1. はじめに

静岡大学では、在籍する留学生に対して、英語での教育・研究支援が行われており、技術職員も英語での対応が求められている。一方で、業務遂行に必要な英語能力の取得を目的とした研修は、学内では開催されていない。そこで、技術研修として技術職員向けの英語研修を企画した。

2. 背景と目的

2.1 静岡大学の留学生

静岡大学には、463名の留学生に加え、協定校との間の交換留学生在籍している。^[1] このうち、理工系の留学生は、修士課程では英語教育課程を選択することができ、博士課程では英語で研究活動を行うことが可能である。^[2] そのため、彼らの教育や研究を支援する技術職員も、英語で対応できる必要がある。例えば、共用の分析装置を利用できる施設（浜松キャンパス共同利用機器センターなど）の支援を行う技術職員は、留学生の為に英語のマニュアル作成や技術指導など、英語が必要となる場面が多く存在する。

2.2 技術職員の英語研修

大学主催の英語研修としては、静岡大学事務系職員グローバル化研修が用意されている。^[3] これは技術職員も受講することができるが、受講人数が限られており、希望通りの受講や継続した受講が困難である。また、内容も技術職員向けというわけではなく、技術職員が英語業務を遂行するために必要なスキルを習得する研修とは言い難い。

一方、学外においては、大学連携設備ネットワークが、技術職員向けの技術英語研修を開催している。^[4] これは広く全国の技術職員に向けた英語研修であり、非常に実用的な研修である。静岡大学では、2019年9月に大学連携設備ネットワーク主催の英語研修を学内で開催した。参加者からの継続開催を望む声が多く、2020年2月には技術部機器分析部門で英語研修を行った。今回、さらに多くの技術職員向けに、技術研修として英語研修を開催することを検討した。

2.3 目的

本研修は、業務に繋がる実用的な英語研修を開催することを目的とした。併せて、本研修を通して、業務に繋がるような英語を学ぶこと、今後の継続的な学習に繋げることを目的とした。

3. 研修内容

3.1 事前準備

業務に沿った内容のプログラムを作成するため、事前に研修参加者にアンケートを行った。アンケートから、参加者が業務において英語のスピーキング能力の必要性を感じているということがわかった。そのため、研修をすべてスピーキング研修とした。

講師は、大学連携設備ネットワークの技術英語研修で講師を務める梅村氏に依頼し、Zoom やメールで打ち合わせを重ね、業務で使えるような実用的なプログラムの作成を行った。

3.2 研修プログラムと当日の様子

アンケートを元に作成した研修プログラムを表1に、当日の様子を図1から図4に示す。

一日目の午前中はスピーキングに慣れるため、自己紹介やウォーミングアップ用のゲームを取り入れ、英文法の振り返りも行った。午後は、スピーキングの実践として、施設見学会という設定で、英語でのプレゼンテーション及び質疑応答の練習を行った。参加者には、事前準備として、自分の業務についてパワーポイント一枚を作成してもらった。

二日目の午前中は、ゲームと英文法の振り返りを行った。午後は、留学生対応の実践として、ロールプレイングを行った。事前にアンケートを行い、実際に英語を使用するシチュエーションを想定した内容で、留学生役と技術職員役に分かれて、即興で会話を組み立てる練習を行った。

9月16日
前半 (10:00-12:00) 「スピーキングに慣れよう」 ① 自己紹介 ② アイスブレイク (Wordwolf) ③ 英文法を振り返ろう (S+V に気をつけて文を作ろう)
後半 (13:30-16:00) 「装置の取り扱いについて説明しよう」 ④ 施設見学会+質疑応答 (20分/人) *事前課題
9月17日
前半 (10:00-12:00) 「対話の基本を振り返ろう」 ① アイスブレイク (ヘルプ!ゲーム) ② 英文法を振り返ろう (関係代名詞と関係副詞を練習しよう)
後半 (13:30-16:00) 「対話で解決しよう」 ③ ロールプレイング (2人ペア、3人グループで) *事前にシチュエーションを提出 ④ まとめ

表 1 研修プログラム

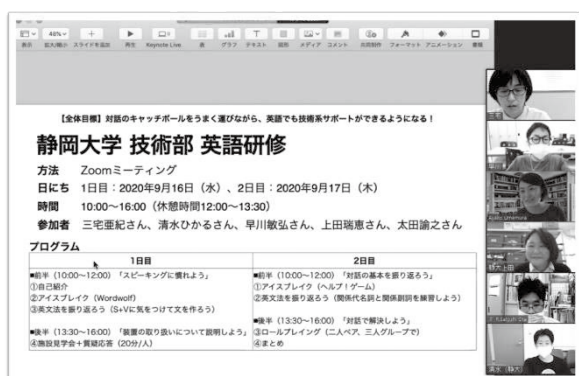


図 1 プログラム説明



図 2 英文法の振り返り

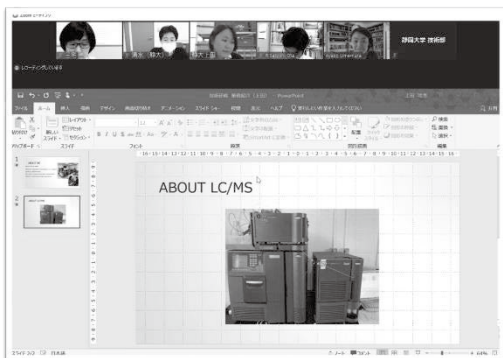


図 3 施設見学会

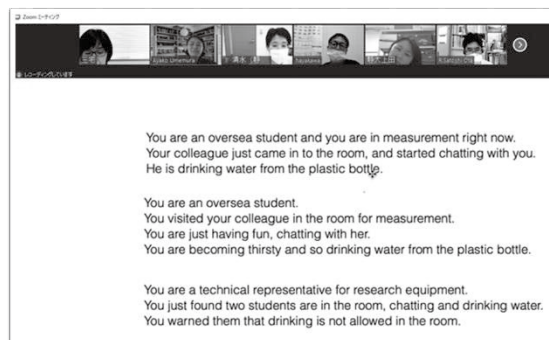


図 4 ロールプレイング

4. 研修成果と今後の課題

研修後のアンケート結果を図 5 に示す。研修の満足度について、今回の研修は良かった、とても良かった、という回答が得られた。また、今後の業務に役立つか、という質問に対しては、非常に役に立つ、役に立つという回答が得られた。この結果から、今回の英語研修が、参加者にとって有意義なものであり、本研修の目的である、業務に繋がる実用的な英語研修の開催が達成できたと言える。

また、次に英語研修があれば参加したいですか、という質問については、参加したい、という回答が多く、継続的な開催が望まれていることがわかった。英語研修の継続開催は今後の大きな課題である。

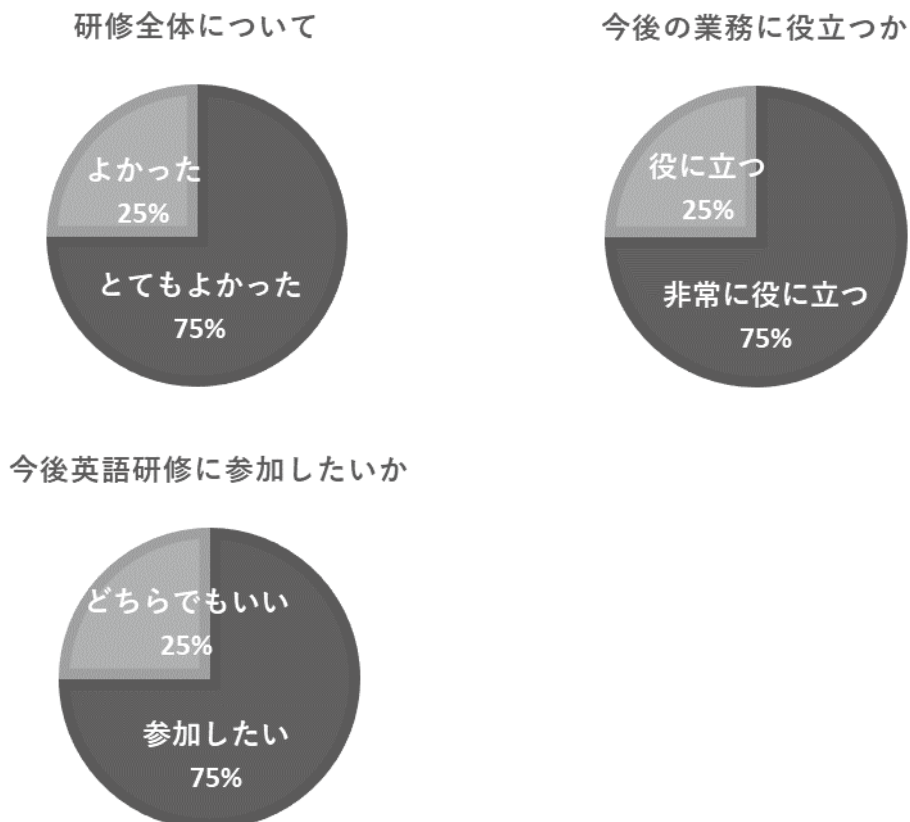


図 5 アンケート結果

5. まとめ

技術研修として、大学連携設備ネットワークでの技術職員向けの英語研修で実績のある講師を招き、二日間の技術英語研修を開催した。実用的な研修とするため、事前に参加者にアンケートを行い、二日間のスピーキング研修プログラムを作成した。

研修後に行ったアンケートでは、研修全体についての満足度が高く、今後の業務に役立つとの回答が得られた。このことから、本研修の目的である、業務に繋がる実用的な英語研修の開催が達成できたと言える。また、英語研修の継続的な開催が望まれているが、これは今後の課題である。

6. 謝辞

本研修にご参加いただきました機器分析部門の清水様、早川様、教育研究第一部門の上田様、情報部門の太田様、また、研修講師を快く引き受けてくださり、プログラム作成にも尽力頂きました梅村綾子先生に深く感謝申し上げます。

参考文献・引用文献

- [1] 静岡大学：「静岡大学公式ホームページ：学生・教職員数」， < <https://www.shizuoka.ac.jp/outline/profile/about/foreign.html> > （2020年5月1日現在）
- [2] 静岡大学：「静岡大学国際連携推進機構ホームページ」， < <https://www.suoic.shizuoka.ac.jp/> >
- [3] 大学連携研究設備ネットワーク：「大学技術職員・技術スタッフ向け人材育成情報サイト」， < <https://eqnet-study.jp/> > .